

都市デザイン・交通・マネジメントに関する国際ワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年09月20日 ～2019年09月28日	日本	ウィーン工科大学	・環境システム学科、建設工学専攻、土木工学科 ・修士1年生、学部3年生、学部1年生、学部4年生、修士1年生	(芝浦工業大学) 学生23名、TA5名、教員3名 (ウィーン工科大学) 学生17名、教員5名	鈴木 俊治(環境システム学科)、中村 仁(環境システム学科)、遠藤 玲(土木工学科)、修士課程学生(建設工学専攻)、環境システム学科学生、土木工学科学生



図1 計画対象地の調査～大塚駅周辺

2019年9月20日～28日の9日間、ウィーン工科大学都市建築系の教員5名、学生17名(学部生及び大学院生)を芝浦工業大学にお迎えし、gPBL (Global Project Based Learning)として国際ワークショップを実施した。本学では環境システム学科、土木工学科、大学院建設工学専攻の合同プログラムとして実施し、参加した学生の総数は23名(うち最終発表を含めた過半のプログラムに参加した学生は17名)であった。また、教員は環境システム学科の鈴木が主担当としてほぼ全日程に参加し、土木工学科の遠藤、建設工学専攻の中村仁(環境システム学科)が中間発表会、最終発表会を含め部分参加した。大学院生のTAは5名が参加した。基本的に、全てのプログラムは英語を用いて実施した。

ワークショップのテーマは「都市デザイン・交通・マネジメント」であり、本学とウィーン工科大学の学生が5つの混成チームを編成し、5つの対象地域において現地調査と提案作成を行った。対象地域はA. 大宮・さいたま新都心、B. 赤羽、C. 大塚、D. 神楽坂、E. 深川である。

日程の前半は計画地の観察、調査を重点的に行い、多くの学生が自分の担当地区を含めて複数の計画地を歩き観察し、対象地の特徴分析及び計画方針の立案を行った。その時点で中間発表会を実施し、提案の方向性を確認し、その後は各チームにおいて地域分析の深度化、提案作成の作業を行った。

最終発表会では5チームがそれぞれ個性的な提案を行い、短期間にしては十分な成果が得られた。検討の過程において、学生たちはよく交流し、最終発表会後のお別れパーティは大盛況となった。本学の学生には英語の語学力が不足している学生も少なくないが、彼らなりに努力し、よい経験を得たようである。今後の継続的な努力、積極的な国際交流への参加に期待したい。

ウィーン工科大学との交流プログラムは今年で3回目であるが、年々参加者が増え、質も向上している。双方にとって有意義なプログラムであり、今後とも交流を続けることで両校の担当教員は一致しており、来年度は本学がウィーンを訪問する方向となっている。



図2 チームに分かれて討議、計画作



図3 中間発表会



図4 最終発表会



図5 お別れパーティ